

パネルディスカッション１：看護の未来を語る～地域包括ケアに向けて～

演題名	地域包括ケアを汎用性のあるものに ～看護の表在化が鍵～
------------	--------------------------------

概要

千葉県柏市において超高齢社会に向けた取り組みを、柏市と東京大学及び UR 都市機構が中心となって展開している。スギメディカル（株）・長岡福祉協会・学研ココファンは 3 社の英知を結集させて地域包括ケアの新しいあり方を試行している。

連携という言葉が叫ばれて久しいが、実態として効率的に機能することは難しい。特別な地域だけが特定の連携を作り上げることでは今後の爆発的高齢社会を支えることはできない。

日本の介護関係事業所は小規模ではあるが、専門特化された優秀で勤勉な事業者がたくさん存在する。そこで柏市豊四季台での取り組みは専門特化した事業者がアライアンスを組んで協働作業による包括事業を展開することで地域を支える仕組みを作ろうとしている。

ないものを作る発想から、日本に今あるリソースを最小限のエネルギーで最大活用することが、目前の課題を整理するうえでも重要であると考えている。

更に、障害を負った対象者は機能の補助的支援として、または回復の過程である治療継続をするために介護や看護が必要である。一人の対象者に対する支援は、生活の連続性の中に存在するため、対象者も介護者も看護師の思考過程を構造的に可視できることで役割が明確になる。

地域包括ケアにおける柏豊四季台プロジェクトにおける看護の構造的可視化の試みをここに発表する。